

2018/11/25

「信仰の実際」

1. 信仰は行動が伴う

「群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。」

(マルコ 2:4-5)

イエス様は、いったい何を見て、「彼らの信仰を見た」というのでしょうか。それは、屋根をはがしてイエス様の前に病人をつり降ろすという、彼らの行動です。つまり、信仰とは、行動を伴うものだという事です。

私たちが彼らに倣い、信じたら行動に移していきましょう。

2. 信仰とは罪を認める勇氣

「イエスはその子の父親に尋ねられた。「この子がこんなになってから、どのくらいになりますか。」父親は言った。「幼い時からです。この霊は、彼を滅ぼそうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。ただ、もし、おできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください。」するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」(マルコ 9:21-24)

この父親は、「もしできるなら、息子を直してほしい」と、イエス様に願いました。この時、イエス様は、父親の不信仰を指摘なさいました。すると彼は即座に自分の罪を認め、結果として、それが彼の信仰と認められたのです。つまり、不信仰を認めれば、信仰になるのです。

一般的に私たちは、「罪」を行いで判断します。しかし、聖書が教える罪とは、神を信頼しないことです。たとえば、イエス様が神の宮で商売している人達の店をひっくり返した乱暴な行いは、この世界の価値観では罪になります。しかし、イエス様にとっての罪とは、神を信頼しないことであつたのです。

私たちは、神と私たちでは罪の理解がまったく異なることを理解する必要があります。イエス様は、私たちが誤って理解している3つの点について、それを正すと言われました。それは、「罪について」「義について」「さばきについて」(ヨハネ 16:8)です。

罪についての誤りとは、罪とは行いではなく、神を信じないこと・信頼しないことだということです。イエス・キリストは神だと信じるなら、その神は何でもできると信じること、

これが信仰として問われているのです。つまり、私たちが戦わなければいけないのは、不信仰なのです。

ここに登場する父親は、イエス様に指摘されるまで、そのような意識は毛頭ありませんでした。しかし、イエス様に指摘されてそれが罪だと気づき、その罪を認めて、不信仰を助けてくださいと願い出た時、それが彼の信仰として受け入れられました。

このことからわかることは、信仰とは罪を認める勇気であるということです。私たちはなかなか自分の罪を認めることができないものです。しかし、聖書は、自分の罪を言い表すならどのような罪も赦されると教えています。

では、一般に世の中で罪と言われる行いは、どのような扱いになるのでしょうか。

行いの罪を深く探っていくと、すべて神を信頼できない不安から生じていることがわかります。たとえば、盗む、殺す、さばく等の行いの罪は、自分で自分を守らなければならないという不安から生じています。そのような不安を抱くのは、神を信頼できないからです。つまり、罪とは神を信頼できないということに尽きるのです。

このような神を信頼できないという罪を認める勇気が信仰です。「自分は神を信頼していなかったな。これは罪だよな。」と認めることができる時、「主よ、あなたを信じます。不信仰な私をお助け下さい。」と一歩踏み出すことができるのです。

3. 信仰とは具体的に祈ること

「彼らはエリコに来た。イエスが、弟子たちや多くの群衆といっしょにエリコを出られると、テマイの子のバルテマイという盲人のこじきが、道ばたにすわっていた。ところが、ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください。」と叫び始めた。そこで、彼を黙らせようと、大ぜいでたしなめたが、彼はますます、「ダビデの子よ。私をあわれんでください。」と叫び立てた。すると、イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい。」と言われた。そこで、彼らはその盲人を呼び、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたをお呼びになっている。」と言った。すると、盲人は上着を脱ぎ捨て、すぐ立ち上がって、イエスのところに来た。そこでイエスは、さらにこう言われた。「わたしに何をしてほしいのか。」すると、盲人は言った。「先生。目が見えるようになることです。」するとイエスは、彼に言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」すると、すぐさま彼は見えるようになり、イエスの行かれる所について行った。」(マルコ 10:46-52)

盲人が「私をあわれんでください」と叫んでいるなら、誰が見ても、見えるようになりたいのは明らかです。しかも、聖書は「神はあなたがたが祈る前から、あなたに何が必要かわかっている」と言っています。ところが、イエス様はわざわざ何をしてほしいのかと尋ねておられます。いったいなぜでしょうか。

ここから私たちは、信仰とは具体的な祈りであるということを知ることができます。言葉

を変えるなら、あいまいに祈るべきではないということになります。たとえば、「一人でも多くの人が救われますように」と祈る時には、それに加えて「誰に救われてほしいのか」、また、「家族が守られますように」と祈る時には、「何を守ってほしいのか」、具体的に祈ってほしいということです。神は私たちが何を願っているかわかっておられますが、私たちが本気かどうかを確認しようとなさいます。私たちが、具体的に求めれば求めるほど、「本当にそうなるだろうか」と不安にもなり、神を信頼する信仰に迫られます。もしあいまいに祈るなら、そこに逃げ道が生まれます。具体的に祈ることで逃げ道をふさぎ、信じて祈るしかないという信仰を生み出すことができるのです。

4. 信仰とは祈ったことはすでに受けたと信じること

「イエスは答えて言われた。「神を信じなさい。まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海にはいれ。』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。また立って祈っているとき、だれかに対して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいます。」(マルコ 11:22-25)

ここで言われている「山」とはエルサレムの神殿を差し、「古い自分に死んで新しく生まれ変わる」ことをたとえています。それは、本当に神を信じるなら、心の中に神の国を見るようになるということです。そして、「祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。」と、イエス様は語っておられます。つまり、信仰とは、祈ったものに対して「もう手に入れました。」と過去形で語ることなのです。これを、「先取りの信仰」という言い方をします。

ヘブル人への手紙には、信仰とは「信じたらその通りになると確信すること」とあります。つまり、信仰には、あなたが望むことはすでにかなえられたと信じさせる力があるのです。私たちは信仰によって、祈り求めたものは将来の希望ではなく、すでに手にしたものだと思えることができるのです。このように確信することができれば、平安になり、安息を得ることができます。

かつて神様は、子どものいないアブラハムに、あなたの子孫は、海辺の砂や天の星のように数えきれないほどになると言われました。そして、アブラハムはその言葉を信じ、砂や星を見て、まだ見ぬ事実を見ていました。このように、まだ見ぬ事実を心の中で見るのが、私たちに求められているのです。

あなたは、祈ったことはすでにかなえられた、と信仰を使っているでしょうか。もしそうであれば、あなたは決してつぶやくことがないはずで、信仰によって生きた人々は、現実にはそれを手にしなくても、信仰ではるかにそれを見て喜んでいとあります。大切なことは、五感で確認した事実を信じるのではなく、信仰で見て確認することです。肉の目で見

て確認し、納得しなければ信じないというのであれば、これは信仰ではありません。神は私たちの願いを知っているにもかかわらず、なぜ祈ることを教えているのか、それは、私たちの不信仰を追い出すためです。「祈ったことはすでに聞かれた」と確信を持って信じられるまで、何度でも祈り、信仰を持ちましょう。

神が私たちに願っておられることは、立派な行いができることでも、神の知識を持つことでもなく、ただ神を信頼することです。そして、あなたと信頼で結ばれた友としての関係を築きたいと願っておられるのです。

5. 信仰は神への愛につながる

「イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」(マルコ 12:29-31)

あなたの信仰が、神を愛する方向に向かっていなければ、それは全く意味がない虚しいものだと言われます。パウロは、それを愛のない信仰と呼びました。どんなに神を信頼していると言っても、確信があっても、愛がなければ何の意味もありません。あなたの信仰は、神に結びついているのでしょうか。

神を信じない世の中でも信仰は存在します。夢を持つことが大切だ、夢は必ずかなうと暗示をかけ、自分の願いを実現に向かわせるのです。しかし、それらはイエス様を愛することに結びつきませんから、神からすると信仰ではありません。神を信頼し、神を愛するという一番大切なことに結びつかないものは、神が教える信仰ではないのです。信仰・希望・愛がいつまでも残ると神が言われるのは、それが神と結びつくからです。

あなたの信仰が神に結びついているかどうか、神に根差しているかどうか、吟味することが必要です。それは、次の三点によって、確認できます。

1) つぶやかない

もしあなたが何かに対してつぶやくならば、それは神に結びついた信仰ではなく、自分さえ良ければいいと思っていることを表しています。もし神を信頼しているのであれば、祈りが聞かれなかったからといってつぶやくことはありえません。それは、神に向かっているのではなく、自分に向かっているだけです。自分の利得のために信仰を使っても、祈りは聞かれないと聖書は教えています。結果にかかわらず、すでに受けたと信じるなら、何があってもつぶやきなど生じないのです。

2) いつも感謝できる

神を信頼し、神にゆだねているならば、祈ってうまくいなくても感謝できます。

3)人をさばかない

誰かを裁いたり、怒りを覚えたりするのは、神に結びついた信仰ではないからです。それは、自分で勝手に作った信仰で、勝手に人を裁いているだけです。神はあなたを赦し、あなたを愛していることを信じるのが信仰のベースです。赦され、愛されていることを信じ受け入れて生きているなら、人を裁くことはありません。あなたは赦されたのだから、あなたも赦しなさいと神は語っておられます。あなたが人をさばく時、あなたの信仰は迷い出てしまっています。

自分の信仰が正しい軌道に乗っているかどうか、この三点でチェックし、信仰がそれることなくいつも正しい方向に向かえるように、正しい信仰を使って祈りましょう。聖書は、もしあなたが祈る時人と争いがあるなら、和解してから祈りなさいと教えています。人を憎んだり裁いたりすることを処理することなく、神に祈り求めても神に近づくことができません。信仰はキリストへの愛と結びつくものです。このような正しい信仰を持つ時、私たちの中に平安が訪れるのです。